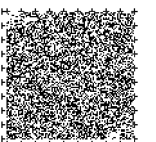
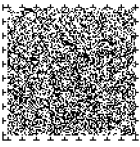


資料編





1 令和3年度豊岡市地域福祉計画策定委員会設置要綱

令和2年12月1日豊岡市告示第350号

(設置)

第1条 社会福祉法人による社会福祉充実計画(社会福祉法(昭和26年法律第45号。以下「法」という。)第55条の2第1項に規定する社会福祉充実計画をいう。以下同じ。)の作成及び市による豊岡市地域福祉計画(法第107条第1項に規定する市町村地域福祉計画をいう。以下同じ。)の策定に関し意見を聴くため、豊岡市地域福祉計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 法第55条の2第6項に規定する社会福祉法人が取り組む地域公益事業の内容及び事業区域における需要に関する事項
- (2) 豊岡市地域福祉計画の策定の検討に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、豊岡市地域福祉計画の策定に関し市長が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員18人以内で組織する。

(委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 地域団体の代表者
- (3) 市民
- (4) 福祉関係者、保健関係者又は医療関係者
- (5) 関係行政機関の職員
- (6) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

2 市長は、前項第3号の市民の委嘱にあつては、公募の方法により行うものとする。

(任期)

第5条 委員の任期は、委嘱の日から令和4年3月31日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前条第2号、第4号及び第5号に掲げる者として委嘱された委員がその要件を欠いたときは、その委員は、解嘱されるものとする。

(委員長等)

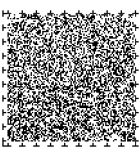
第6条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 委員会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は必要な説明若しくは資料の提供を求めることができる。



(庶務)

第8条 委員会の庶務は、健康福祉部社会福祉課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

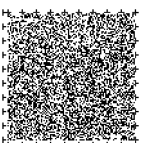
1 この要綱は、告示の日から施行する。ただし、第2条第1号の規定は、令和3年4月1日から施行する。

(招集の特例)

2 委員の委嘱後最初に開かれる会議は、第7条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

(失効)

3 この要綱は、令和4年3月31日限り、その効力を失う。



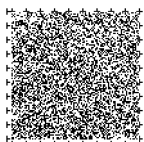
2 豊岡市地域福祉計画策定委員会委員名簿

(敬称略)

区 分	氏 名	所属団体名
学識経験者	永田 祐	同志社大学社会学部社会福祉学科
	田垣 正晋	大阪府立大学人間社会システム科学研究科
地域団体の代表者	○ 丹賀 正康	豊岡市区長連合会 (2021年5月24日～)
	○ 増田 克志	豊岡市区長連合会 (～2021年5月23日)
	富森 とも子	地域コミュニティ組織 NPO法人 わいわいみ・な・み (竹野・竹野南)
	小谷 博幸	地域の集いの場 (ふれあいいきいきサロン、 玄さん元気教室) (但東・坂津)
	橋本 道江	ボランティアグループそよ風
	青柳 順子	一般社団法人ちいきのて
公募委員	菅野 晴美	ボランティアサークルなでしこ
福祉・保健・医療関係者	森田 智津子	豊岡市民生委員児童委員連合会 (日高民生委員児童委員協議会)
	磯橋 孝行	豊岡市社会福祉法人連絡協議会
	岡田 卓巳	生活協同組合コープこうべ第7地区本部 (2021年8月5日～)
	陰平 康平	生活協同組合コープこうべ第7地区本部 (～2021年8月4日)
	宮下 典子	但馬障害者通所施設連絡会
	◎ 西池 匡	兵庫県社会福祉士会但馬支部
	西垣 浩文	豊岡市保育協会
	川端 強	豊岡市医師会
	戸田 和代	ひきこもり相談支援センター但馬ランチ (NPO 法人ドーナツの会)
行政関係者	伊地智 三佐子	兵庫県但馬県民局豊岡健康福祉事務所

◎委員長 ○副委員長

任期 2021年3月15日～2022年3月31日



3 豊岡市地域福祉計画策定経過

○策定委員会の開催状況

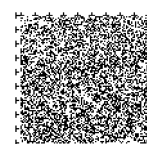
	日時・場所	協議事項等
第1回	2021年3月15日(月) 13:30～ 豊岡健康福祉センター2階第1会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長及び副委員長の選出について ・計画策定方針(案)について ・計画策定スケジュール(案)について ・勉強会：同志社大学 社会学部 社会福祉学科 教授 永田 祐 氏
第2回	2021年8月5日(木) 10:00～ 豊岡健康福祉センター3階第2会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・グループインタビューの結果について ・現状と課題について ・骨子体系(案)について
第3回	2021年10月6日(水) 10:00～ 豊岡健康福祉センター3階第2会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市地域福祉計画の進捗について(第1章～第2章) ・基本理念及び基本目標について ・施策展開について
第4回	2021年12月7日(火) 10:00～ 豊岡健康福祉センター3階第2会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念及び基本目標について ・計画の推進体制について ・地域福祉計画(素案)について

○豊岡市地域福祉計画策定委員研修会

日時・場所	研修内容等
2021年3月15日(月) 13:30～ 豊岡健康福祉センター2階第1会議室	演題：「地域福祉計画の基本的な考え方」 講師：同志社大学 社会学部 社会福祉学科 教授 永田 祐 氏

○作業部会の開催状況

参集範囲	開催回数
【市】 ：こども育成課、こども支援センター、コミュニティ政策課、政策調整課、 高年介護課、健康増進課、社会福祉課の係長以上の実務者 【市社協】 ：地域福祉課、在宅福祉課の実務者	9回



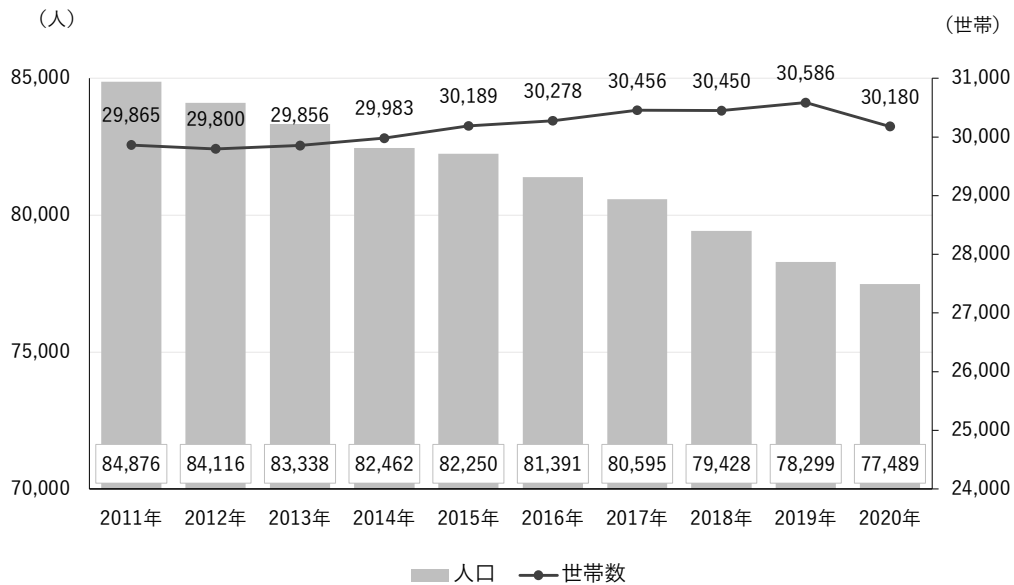
4 統計データ

(1) 人口及び世帯の状況

①人口及び世帯

人口の推移をみると、年々減少傾向にあり、2011年の84,876人から、2020年には77,489人となり、7,387人減少しています。一方、世帯数の推移をみると、2013年以降、増加していましたが、2020年には30,180世帯と減少に転じています。

図1 人口及び世帯数の推移



資料：2020年版 豊岡市統計書、2015・2020年は国勢調査

図2 地域別人口の割合（2019年）

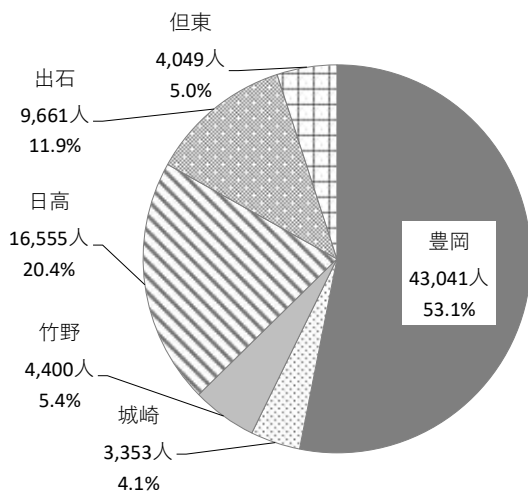
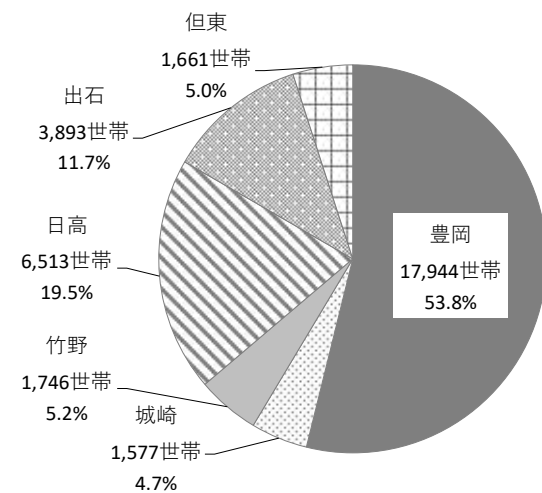
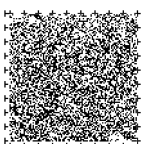


図3 地域別世帯数の割合（2019年）



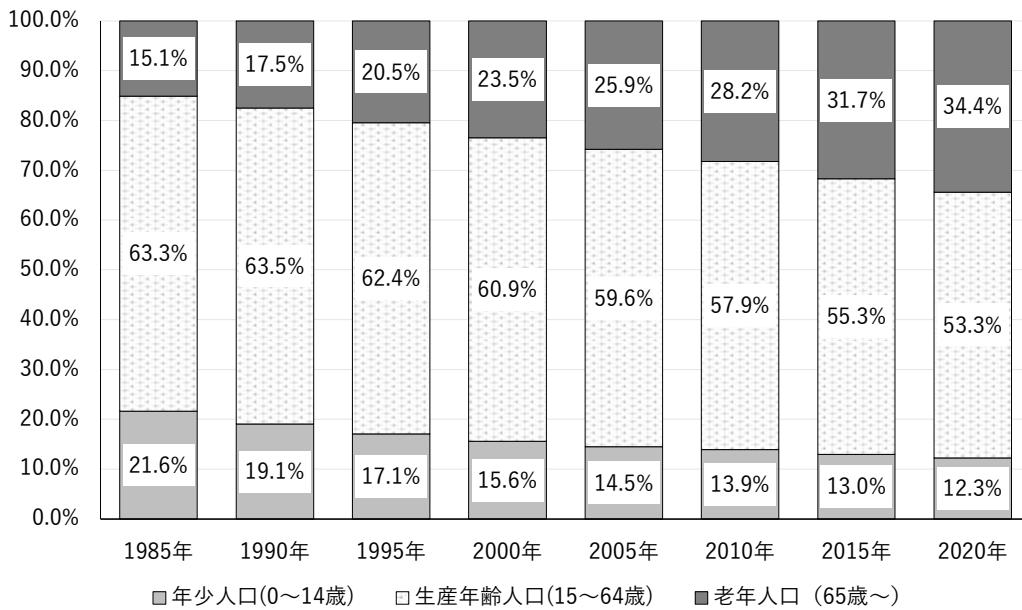
資料：2020年版 豊岡市統計書



②年齢3区分別人口の構成割合の推移

年齢3区分別人口構成割合の推移をみると、65歳以上が年々増加傾向にあり、1995年には20%を超え、2020年には34.4%に増加しています。一方、15～64歳と15歳未満は減少傾向を示し、2020年にはそれぞれ53.3%、12.3%となっています。

図4 年齢3区分別人口の構成割合の推移

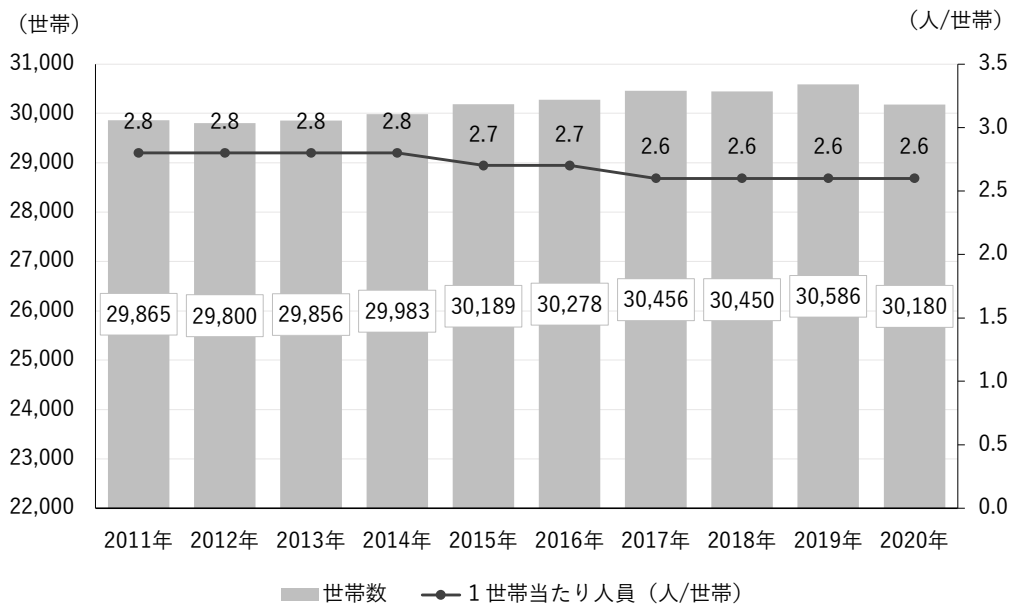


資料：国勢調査

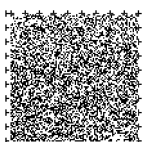
③世帯数及び1世帯あたりの人員の推移

世帯数は2019年まで増加し、2020年で減少しています。一方、1世帯あたりの人員は、年々減少傾向にあり、2011年の2.8人から2017年以降では2.6人に減少しており、核家族化や一人暮らしが進行しています。

図5 世帯数及び1世帯あたりの人員の推移



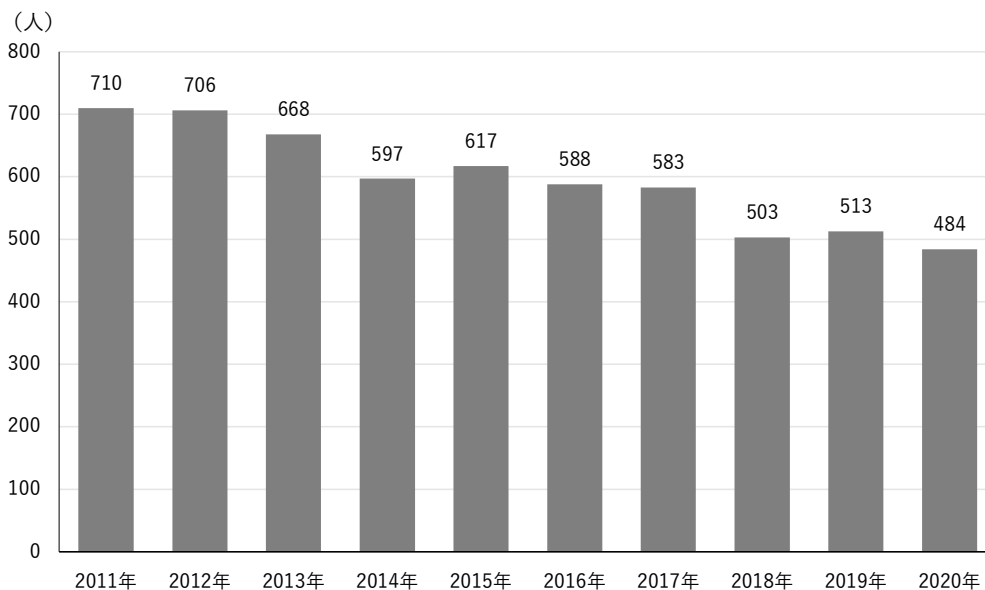
資料：2020年版 豊岡市統計書、2015・2020年は国勢調査



(2) 子どもの状況

子どもの出生数の推移をみると、2011年の710人から、2020年には484人と大きく減少しており、少子化が顕著になっています。

図6 出生数の推移



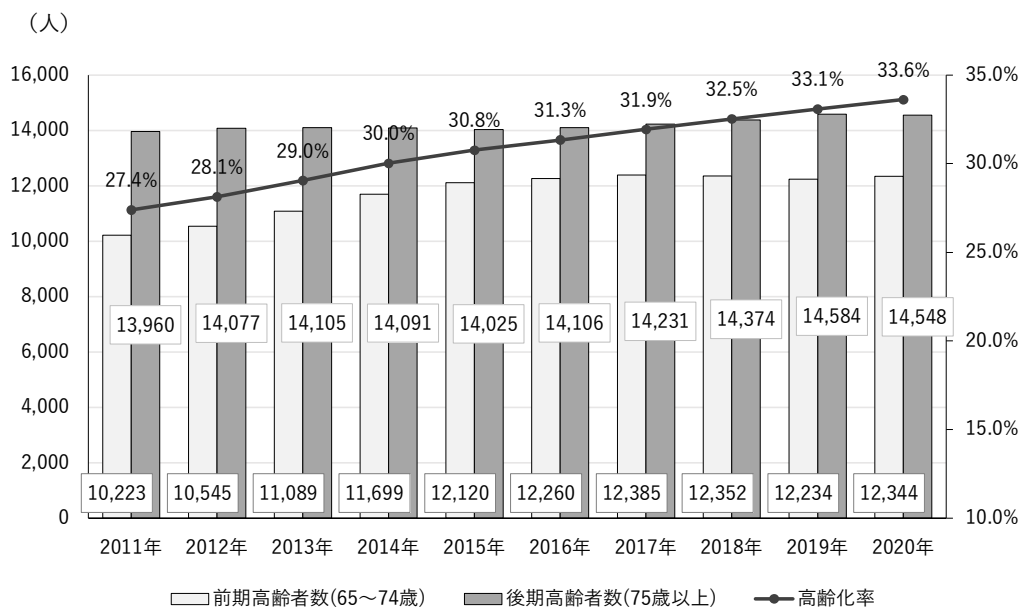
資料：豊岡市事務報告書

(3) 高齢者の状況

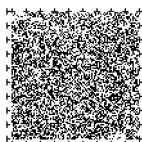
① 高齢者数と高齢化率の推移

高齢者数は年々増加しており、高齢化率をみると2011年の27.4%から、2020年には33.6%となっています。

図7 高齢者数と高齢化率の推移



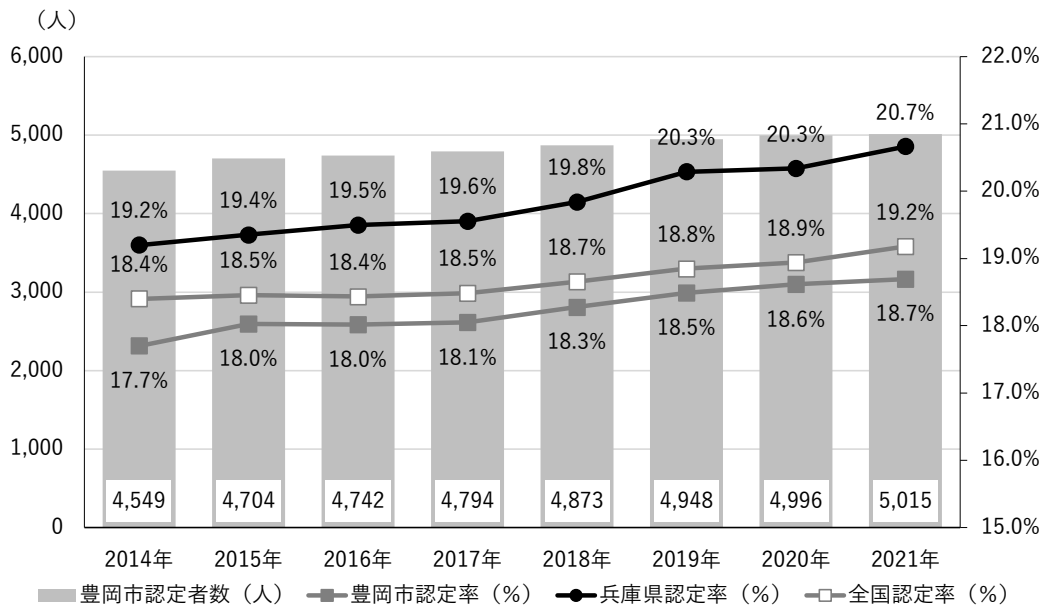
資料：住民基本台帳



②要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数の推移をみると、増加傾向にあり、2014年の4,549人から、2021年には5,015人となっています。また、豊岡市の認定率は、全国、兵庫県に比べて低いものの増加傾向にあり、2021年では18.7%となっています。

図 8 要支援・要介護認定者数及び認定率の推移

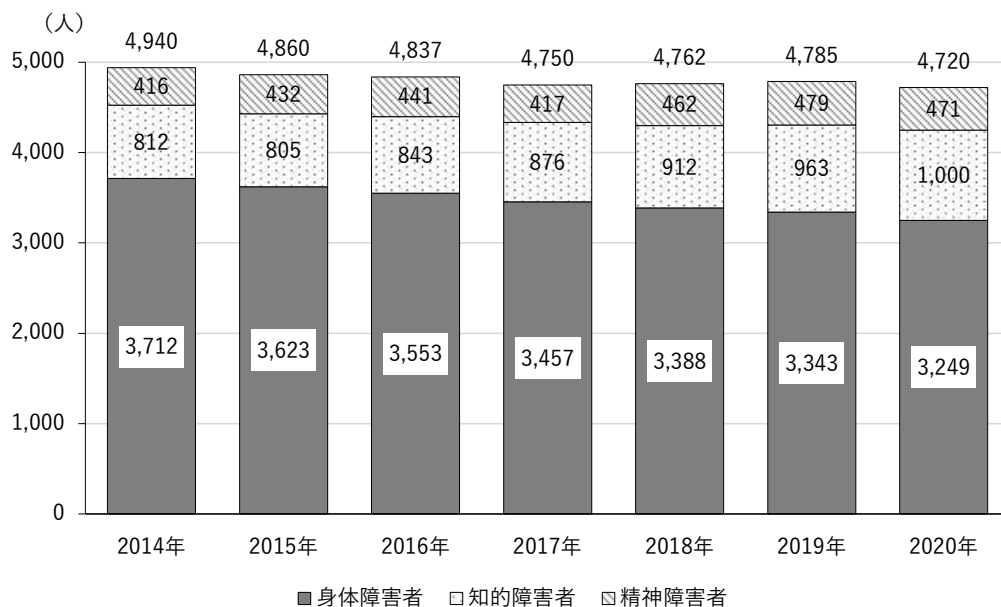


資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

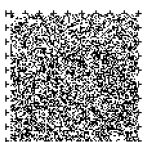
(4) 障害者の状況

障害者手帳所持者数の推移をみると、全体及び身体障害者数は減少していますが、知的障害者数は2016年以降、増加傾向にあり、2020年では1,000人となっています。精神障害者数は増減が見られるものの増加傾向にあり、2020年には471人となっています。

図 9 障害者手帳所持者数の推移



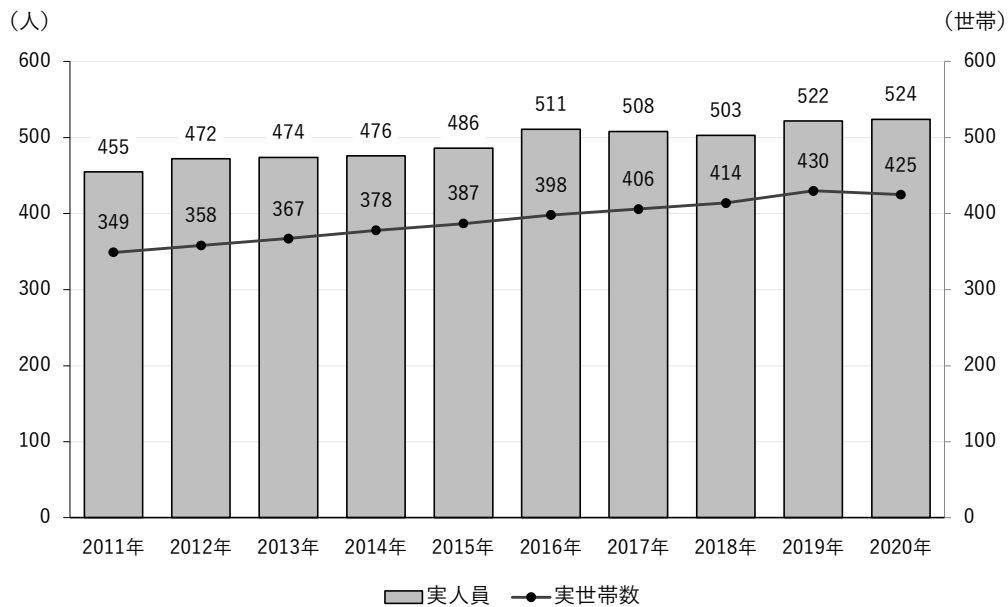
資料：社会福祉課



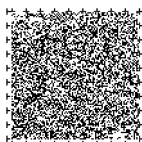
(5) 生活保護受給者の状況

生活保護受給者数の推移をみると、実人員はわずかに増減が見られるものの増加傾向にあり、2020年には524人となっています。

図 10 生活保護受給者数の推移



資料：社会福祉課



5 グループインタビューの結果

(1) グループインタビューの実施概要

①グループインタビューの目的

豊岡市地域福祉計画(2022年度～2026年度までの5年間)を策定するにあたり、地域福祉活動団体等の活動の現状、課題やニーズ等を把握することで仕組みづくりの方向性を検討することを目的にグループインタビューを実施しました。

②グループインタビューの調査対象

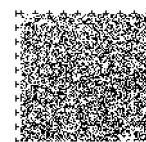
区分	地域・組織・団体
地域コミュニティ組織	<ul style="list-style-type: none">とよおかコミュニティ31（豊岡）コミュニティ城崎（城崎）資母まちづくり協議会（資母）
民生委員・児童委員	<ul style="list-style-type: none">豊岡市民生委員児童委員連合会
行政区	<ul style="list-style-type: none">森本区（竹野）内町区（出石）江原区（日高）
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none">豊岡市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットとよおか）

③グループインタビューの実施期間

2021年7月1日～7月7日

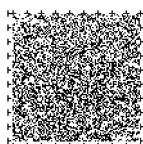
④グループインタビューの調査実施者

市、市社協、地域福祉計画作成業務委託業者（株式会社 地域社会研究所）



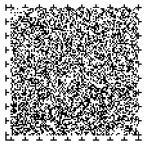
⑤グループインタビューの主な項目

区分	項目1	項目2	項目3	項目4
地域 コミュニティ 組織	どのような地域づくりを目指し、どのような活動をされているか。	項目1の活動効果について	項目1の活動をすすめる上での課題について。また、コロナ禍によって気づかされたことは？	項目3の課題解決をするためには、今後、何(しくみ・人材・支援等)が必要と思われるか。
民生委員・ 児童委員	活動を通して困っていることは、どのようなことがあるか。	項目1の困っていることに対して、委員として取り組めることはどのようなことがあるか。	見守り活動をする上での課題について。また、コロナ禍によって気づかされたことは？	項目3の課題解決をするためには、今後、何(しくみ・連携等)が必要と思われるか。
行政区	数年前と比較し、近所づきあいや関わりはどのように変化したと感ずるか。	項目1の変化により、区のつながりや活動にどんな影響があるか。	区で力を入れて取り組んでいること、取り組みたいことは何か。また、区や近隣の支え合いのできることは何か。	項目3を実施するためには、どのような支援等が必要と思われるか。また、地域コミュニティ組織とどのような関係を築いていく必要があると思われるか。
社会福祉法人	法人からみて、地域福祉や地域づくりのイメージをどうとらえているか。	現在、地域とどのようなつながりがあるか。	事業運営の中で感じている地域の福祉課題について	項目3の課題に対して、社会福祉法人として取り組めることについて



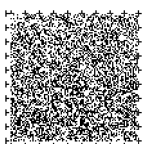
(2) グループインタビューの結果

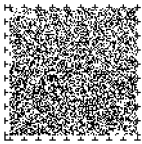
①地域コミュニティ組織



とよおかコミュニティ31 (豊岡)	
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 「環境づくり部会」「安心安全づくり部会」「まちづくり部会」と、公民館活動から継承した「人づくり部会」を加えた4つの部会で活動している。 地域サポーターや社協の協力により、地域コミュニティ活動等について考えるワークショップを実施した。
活動の効果	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップでは、地域コミュニティ組織から先導するのではなく提案から始めることで、現役世代から主体的な意見が生まれ、活動へと結びつく土壌づくりが進んでいる。
コロナ禍の影響	<ul style="list-style-type: none"> 行事や会議などを簡単に中止するのではなく、開催できるよう市のガイドラインの遵守や感染リスクを避け工夫しながら開催した。 コロナ禍をきっかけに、これまでの事業等について考える機会となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 徒歩圏内に交通機関、商店、医療機関がある便利さから、公民館時代から全体で集まって取組むという結束感が薄く、各行政区で完結することが多い。 地域コミュニティ組織の活動内容の認知度が低いため、SNSなども活用しながら地域へ発信していくことが必要である。 「人づくり部会」は現役世代が多いため、次の世代へ引き継いでいってほしい。

コミュニティ城崎 (城崎)	
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 「スポーツと文化のつながり部」「学びのつながり部」「安心のつながり部」「まちのつながり部」「コミュニティビジネス部」の5つの部会で活動している。 「安心のつながり部」では、偶数月にサロン活動を行い、高齢者に集いの場所を提供している。 「まちのつながり部」では、挨拶運動、まちの美化、地域文化の掘り起こしの3本の柱で行っている。 「コミュニティビジネス部」では、地域コミュニティ組織で収入を生み出すため、「ゆったり朝市」を始めた。
活動の効果	<ul style="list-style-type: none"> 部会委員が多様な意見を出し合いながら企画できる環境や女性が活躍しやすい環境の整備を進めている。
コロナ禍の影響	<ul style="list-style-type: none"> 中学生やJR等の有志が清掃活動で集めた落ち葉で腐葉土を作り、花を育てたり、コロナ禍で休業している旅館がお弁当を作り、「ゆったり朝市」で販売したり、観光協会と協力して浴衣地のマスクを制作するなど、多世代の住民、事業所、観光協会などと横のつながりが持てることが分かった。 地区の元気を取り戻すため、生徒会で考えたキャッチコピー入りの横断幕をPTAや老人クラブの寄付により制作したり、休校中の中学生有志が高齢者に配布するマスクを作ることで、地元へ愛着を持ってもらえた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア・地域活動は定年後の高齢者が多く、若い世代の育成が課題である。

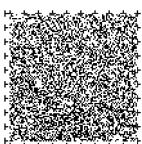


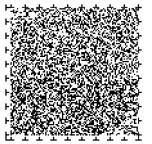


資母まちづくり協議会（資母）	
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「広報部会」「人づくり部会」「まちづくり部会」「暮らしづくり部会」の4つの部会がある。「暮らしづくり部会」では、福祉班、空き家班、防災班、チクタク班の4つの班で活動している。 ・市外の資母地区出身者に定期的に広報紙を発送している。 ・「暮らしづくり部会」では、空き家の把握、豊岡の空き家バンクへの登録やチクタクの運行など地域課題が活動につながっていく仕組みづくりをしている。活動を行う中で、空き家になる前に状況把握やサポートが必要とわかり、一人暮らし高齢者等への見守り活動へとつながっていった。 ・民生委員・児童委員の担い手不足という課題に対して、民生委員・児童委員、民生・協力委員、福祉委員等が連携できる体制づくりを行っている。
活動の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により自分たちの力では防災活動が難しいため、消防団と連携しながら消火活動に取り組んでいる。また、地域コミュニティ組織により、今まで連携が難しかった区長、区役員、福祉委員、民生委員・児童委員がひとつの目標に向かっていけるような活動が進んできている。
コロナ禍の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者の集いを開催していたがコロナで中止になったが、手作りマスクや手紙等を福祉委員が見守り活動として配布した。 ・地区内では、感染対策をしてサロン活動を開催し、高齢者の見守り活動にもなっている行政区もあった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者だけでなく、高齢夫婦の世帯についてもフォローしたいが、年々増加しているので難しい面もある。 ・空き家への移住者には、最終的に地区の担い手となってほしい。 ・チクタクは高齢化により利用者が増えるが、運転手も高齢になり担い手不足である。

②民生委員・児童委員

豊岡市民生委員児童委員連合会	
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・住民からの相談（介護や子育ての悩み、生活困窮等）に応じ、アドバイスや福祉サービス等の情報提供、各種手続きの支援、行政との連絡調整などの支援をしている。 ・要援護者（一人暮らし高齢者等）の見守りや訪問をしている。 ・こんにちは赤ちゃん訪問事業で、新生児家庭（生後4ヶ月まで）の訪問と子育て情報の提供をしている。
活動の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・「コロナ禍におけるひとり暮らし高齢者への声かけ・自宅訪問事業」として、マスクやウェットティッシュなどを配布し、困り事の把握をした。 ・区長や民生委員・児童委員、民生・児童協力委員、福祉委員等を中心に組織（福祉委員会）を作り、地域福祉活動に取り組んでいる。その中でも要援護者の情報にアンテナを張り、気になることがあれば、民生委員・児童委員に連絡が入る仕組みを構築している地域もある。 ・支え合いマップ等を通じて、民生委員・児童委員、区長、区役員、民生・児童協力委員、福祉委員、社協などで現状把握し、役割分担をしている地域もある。

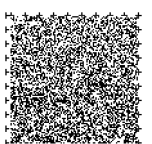




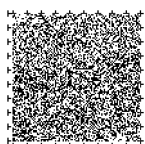
コロナ禍の影響	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍で民生委員・児童委員の定例会ができていない。 • 感染防止のため、電話による安否確認をした。 • ワクチン予防接種予約の手続きを手伝った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> • ひきこもり、認知症、ひとり親家庭、精神的不安定な人等、課題が多様化しており、民生委員・児童委員だけでは支援が難しい。 • 地域全体で見守り活動をする意識が低下しているため、区、民生委員・児童委員、民生・児童協力委員、福祉委員などの連携が必要である。民生委員・児童委員、民生・児童協力委員、福祉委員の連絡協議会があれば連携しやすくなる。 • 「一人暮らし高齢者等安心・見守り活動奨励金」の区の見守り対象者と民生委員の見守り対象者が重複しているため区と情報共有し連携を図る必要がある。 • 個人情報保護の観点から、住民の情報が把握できない。特に不登校・児童虐待の把握が難しいため、子どもの見守りでは、学校や育成会との連携が必要である。 • 地域包括支援センター等の相談機関からのフィードバックがない。

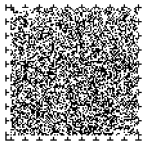
③行政区

森本区（竹野）	
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> • 一人暮らし高齢者には見守り隊がついて、情報を把握しており、何かがあった場合の対応を決めている。最近では、ワクチン接種予約の状況を尋ねた。 • 隣保ごとに年間行事が異なり、6つの隣保がそれぞれに活動している。
活動の効果	<ul style="list-style-type: none"> • 区で各世帯のワクチン接種予約の状況を尋ね、地域コミュニティ組織と連携して予約の世話をした。 • 隣保ごとのまとまりがある。
コロナ禍の影響	<ul style="list-style-type: none"> • 区の会合は開かず、総会や役員会も書面で開催した。 • 区が実施しているグラウンドゴルフ・囲碁ボール・ゲートボール大会が開催できていない。
課題	<ul style="list-style-type: none"> • 隣保ごとに活動しているため他隣保のことが把握しづらい。 • 行事に参加する人が少ない。 • プライバシー意識の高まりや帰属意識の低下によって近所付き合いを好まない人が増えている。 • 農家数の減少により農業用水路の共同管理や共同作業を通じた結びつきも弱まっている。 • 区長は1年任期で、副区長が次期区長となる形になっているが、地域コミュニティ組織との連携を図っても区長の代替わりで切れてしまうこともあるため、継続した連携が必要である。



内町区（出石）	
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 世帯数は 8 軒で古くからの住人で家族構成なども把握できている。世帯数が少なく、高齢化が進んでいるが、多世代が揃っている。 お寺を借りて玄さん元気教室やサロン活動を開催しており、区民が集まる機会をたくさん設けている。
活動の効果	<ul style="list-style-type: none"> 顔の見える関係により、隣近所で自然と見守り活動ができている。
コロナ禍の影響	<ul style="list-style-type: none"> 集まる場所については、広い場所が確保できるので、最初の緊急事態宣言以外は活動を継続していた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 世帯数が徐々に減っており、これからも増える見込みがない。Uターンしてくる人は稀であり、戻ってきても仕事がない。 高齢化が進んでおり、区の役員等をできる住民が限られている。





江原区（日高）	
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> 江原区は 185 軒とアパート住まいが約 50 軒あり、隣保単位（27 隣保）で活動を行っている。 地域で支え合いや情報共有を行うために、福祉会議を年に 1～2 回開催している。 年に 3～4 回、隣保長会議を開催し、情報共有して行政にも伝えて意見をもらうこともある。 玄さん元気教室を月 2～3 回実施。体操が終わった後にサロン活動を開催しており、それを楽しみにしている参加者もある。
活動の効果	<ul style="list-style-type: none"> 支え合いマップを作り、一人暮らし高齢者、障害のある家庭、気になる家庭の軒数が把握できた。見守り活動の意識は少しずつ高まっている。 玄さん元気教室終了後にサロン活動を開催しており、さまざまな世代が集まる機会となっている。
コロナ禍の影響	<ul style="list-style-type: none"> 敬老会が開催できず、代わりに記念品の配布を行ったことで、見守り活動につながった。 高齢者のワクチン接種予約の手伝いが、見守り活動につながった。 コロナで全ての活動を中止するのではなく、規模を縮小して実施した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進み、行事への参加が難しくなっている。 子どもが自立し新興住宅に住むことで高齢世帯が増え、空き家が増加している。 近所付き合いをしない人や区の活動に参加しない人の見守り活動が難しい。 地域コミュニティ組織の役割を区民が理解していない。区民は公民館活動の延長だと思っている。

③社会福祉法人

豊岡市社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネットとよおか）	
活動概要（地域とのつながり）	<ul style="list-style-type: none"> 行事、実習、ボランティア等の事業の中で、こども園・学校等との接点がある。介護福祉士の実習を受け入れている。 障害分野では地域との交流は難しい状況である。 地域が実施しているカフェやサロン活動に参加している。
コロナ禍の影響	<ul style="list-style-type: none"> 地域において課題解決の役割を担うことが必要だが、コロナ禍で関わりが少なくなっている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域を支える福祉人材の確保が難しくなっており、地域貢献活動が難しい。 福祉施設等は、地域のどこにあるか住民が認識しているが、地域とのつながりは持ちにくい。 地域の障害者理解が進んでいない。発達障害者支援センターでは事業所を訪問して研修はしているが、まだまだ地域の中での理解が進んでいない。

